



# ふくしま夢つうしん



## CONTENTS

### 特集

大波三兄弟 …2

### ふくしまの魅力人

ふくしまベリーボーイズ

片平 聡さん 水野 圭悟さん …6

### インフォメーション

祝・古関裕而さん野球殿堂入り  
元気ふくしまふるさと寄附金 …8

# 角界に旋風。福島市の矜持、大波三兄弟 熱い声援を力に自分を信じて挑む！

本名の姓から、「大波三兄弟」で知られる福島市出身の若隆元さん（長男）と若元春関（次男）、若隆景関（三男）が、土俵の上で旋風を巻き起こしています。身一つでぶつかり合う大相撲。自分を信じて踏み込む姿は、まさに私たち、そして福島市の希望です。今号は、強靱な体と精神を求めて奮励努力を重ねる三兄弟を特集します。



**若隆景渥**  
初土俵 平成29年3月場所  
新十両 平成30年5月場所  
新入幕 令和元年11月場所  
新三役 令和3年7月場所  
幕内優勝 令和4年3月場所

所属部屋：荒汐  
本名：大波 渥  
四股名履歴：若隆景  
番付：関脇  
生年月日：平成6年12月6日(28歳)  
身長：182.0cm  
体重：132.0kg



**若元春港**  
初土俵 平成23年11月場所  
新十両 平成31年3月場所  
新入幕 令和4年1月場所  
新三役 令和5年1月場所

所属部屋：荒汐  
本名：大波 港  
四股名履歴：荒大波→剛士→若元春  
番付：小結  
生年月日：平成5年10月5日(29歳)  
身長：187.0cm  
体重：143.0kg



**若隆元渡**  
初土俵 平成21年11月場所

所属部屋：荒汐  
本名：大波 渡  
四股名履歴：大波→若隆元  
番付：幕下二十枚目  
生年月日：平成3年12月29日(31歳)  
身長：183.0cm  
体重：122.9kg

※プロフィールは日本相撲協会ホームページより引用。（写真：大波政志さん提供）  
※すべて令和5年2月27日現在の情報。

## 勇姿に歓喜！白星で福島市民に 元氣と勇氣、希望を届ける

大波三兄弟は、「足取り名人」の元小結若葉山が祖父、父は元幕下若信夫という相撲一家に育ちました。福島市立吉井田小学校時代から三人揃って県北相撲協会主催のわんぱく相撲教室に通い、2009年には、長男が荒汐部屋に入門。2年後に次男、8年後に三男が续きました。相撲の精神を胸に、強靱な体を求め奮励努力を重ねる三兄弟。戦国大名、毛利元就の息子たちの名前にちなんだ四股名「若隆元」「若元春」「若隆景」をもらい、稽古に励み、挑む姿は、福島市の誇りです。

なかでも2022年の快進撃は、記憶に新しいところ。三男の若隆景関は、3月場所で大関脇として86年ぶりの幕内優勝を果たしました。さらに技能賞にも2度選ばれ、年間最多勝にも輝きました。次男の若元春関は、2023年1月場所で大関脇に昇進し若隆景関との兄弟同時三役に。関取を目指して精進を重ねる長男の若隆元さんは、自身の取り組みと若隆景関の付け人と、双方に全力投球しました。コロナ禍の閉塞感の中にいた私たちは、ひたむきな三人の姿に胸を熱くし、たくさんの元氣と希望をいただきました。

## 小さくしまエール大使に就任 得意技を磨いて飛躍の年に

福島市は昨年、ふるさとに勇氣と希望を届けてくれる地元出身力士のために、応援と感謝の気持ちを込めたパブリックビューイングを福島駅西口駅前広場で実施しました。若隆景関には、その功績をたたえて「福島市スポーツ賞」を贈呈。市役所本庁舎ロビーに初優勝を祝福する横断幕、続いて若元春関と兄弟同時三役の誕生を祝う横断幕を掲げたほか、パネル展を開催するなど、全力で応援を続けました。また、お三方が土俵に上がるたび「福島県福島市出身」とアナウンスされることから、活躍

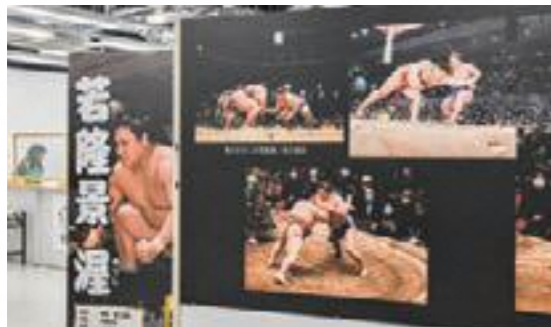
を通してこれまで以上に福島市の応援とPRをお願いしたいと考え、「実・湧・満・彩ふくしまエール大使」に就任いただきました。さあ、待ちに待った春がやってきました。これからどんな展開になっていくでしょうか。2023年の1月場所は、下から攻める相撲に磨きをかけ大関を目指す若隆景関も、左四つの正統派の若元春関も、9勝6敗で勝ち越しました。若隆元さんは、直近3場所連続で勝ち越しています。大関昇進、兄弟関脇、三兄弟同時関取、いずれも手が届くところにいる大波三兄弟。福島市は、今年も引き続き場所中にパブリックビューイングを開催します。力士に

とって応援は力の源。一層の飛躍を願ひ、みんなでエールをおくり続けましょう。

※福島市に関係のある個人または団体が、国内外のスポーツ大会などにおいて特に優秀な成績を収め、スポーツを通じて市民のみならず地域に勇氣や感動を与え、その功績が顕著であり、本市のスポーツ振興に寄与した方を表彰するもの。



大波三兄弟「実・湧・満・彩ふくしまエール大使」に就任（令和4年10月25日）



エスタビル地下1階にリニューアルオープンした街なか交流館で「若隆景、若元春、若隆元」大波三兄弟パネル展を開催しました（令和4年4月30日～5月31日）



福島市役所では若元春の小結昇進と兄弟同時三役の誕生を祝う横断幕が掲げられ、若元春関本人もご覧になりました



今年の初場所でもパブリックビューイングを開催。後援会の方やファンの方が集まり熱い声援を送りました



三兄弟の美家でもあるお店の前で。父・政志さんと、「三本の矢」の柄の帯を締めた母・文子さん

## 大相撲「大波三兄弟」の父語る 目指せ史上初、三兄弟同時関取

今年も活躍がおおいに期待される大波三兄弟。「まさか、子どもたちが角界に入るとは思っていませんでした」と話す父・政志さんに、兄弟揃って相撲を始めたきっかけや個性、活躍について、また、本年にかける思いなどを伺いました。

### 大波 政志 さん

福島市出身、1967年生まれ。元幕下若信夫（1982年～1987年）。力士引退後、自身の親方でもあった元小結若葉山が、日本相撲協会を定年退職後に開業した「ちゃんこ若葉山」（名古屋市中区）で板前として働く。親方の次女文子さんと結婚。1996年、妻と3人の子どもを連れて福島市にUターン。1997年、名古屋の店を閉じて文子さんの父も転居し同居。1998年、市内に「ちゃんこ若葉山」を開く。



子どもたちが相撲を始めたのは、私が現役だった頃の後輩である県北相撲協会の役員から誘われたことがきっかけです。本人たちに聞くと「やる」と言ったので、「じゃあ、行ってこい」と。福島市相撲場を拠点に活動していた「わんぱく相撲教室」に通うようになりました。長男が福島市立吉井田小学校4年生、次男が2年生、三男が1年生の時です。

自分で言うのもなんですが（苦笑）、それまでの私は子煩悩で優しくなったんですよ。それが、相撲が始まってからは親というより指導者の一面の方が強くなってしまいました。家庭が相撲で一色になりました。仕方ないというか……。子どもたちも「成績を残したい」「強くなりたいたい」と考えていましたし。彼らの祖父は、三役まで行った力士です。伸びていく環境、強くなる環境にはありましたので。

### 我慢強い子たちだからこそ けがを見逃さないよう心配り

私たち夫婦は、子どもたちを分け隔てなく育てました。ただ、二人とも厳しかったです。力士としてだけでなく、一人前の社会人に育てていかなきゃなりません。しかもちゃんこ店を経営しながらでしたので、子どもたちも夕食は自分で食べたりするなど大変なことがたくさんあったと思います。

私は、口癖のように「一生お前らの目の上のたんこぶでいてやるからな」「壁は正面から乗り越えろ」と言っていました。だから3人とも物事から逃げない。苦しい稽古も我慢できる人間に育ったと思います。気を付けていたのはケガです。3人とも我慢強くて、痛いのは当たり前、「痛い」と言わない。妻は、稽古を見に行つてケガを見逃さないようにしていました。

### 広島を訪ねてお墓参り 四股名のご縁で広がる交流

戦国武将、毛利元就の「三本の矢」に由来する「若隆元」「若元春」「若隆景」という四股名は、三男が荒汐部屋に入門した時に、先代親方（元

小結大豊）がつけてくださいました。かねてから準備していたみたいなんです。3人揃ったことをとても喜んでね。私たちもうれしくて、名前をつけてもらつてすぐ、広島に行つて毛利三兄弟のそれぞれの菩提寺を訪ねてお墓参りをしてきました。以来、広島の皆さんも3人を熱い気持ちで応援してくださっています。「隆景米」というお米をずっと送ってくださるなど、名前のご縁で福島と広島の交流が生まれて、それが今も続いていて。ありがたいことです。

### 福島市、県人会、 皆さんの応援を力に

昨年は、本当に飛躍の年だったと思います。福島市をあげての応援には、感謝しかありません。ツアーを企画して国技館まで行つてくださった、東京在住の福島県人会の方々も応援に駆けつけてくださった。間違いなく皆さんの応援が彼らの力になっていきます。国技館に行つて驚くのが長男の人気です。まだ幕下力士なのにワーッと沸きます。私たちも行つてびっくりしたんです。角界は、すべて番付に基づく厳しい縦割りの世界です。長男は、関取を目指す一力士であり、弟の付け人という

難しい立ち場にいます。そうしたことも全部包み込むようにファンの方が応援してくださっています。

### それぞれに目標を掲げ 高みを目指す三兄弟

今年、三男は、昨年やり残したことを激しく、そしてストイックに追い求めるんだろうと思います。強い大関というか、自分で理想の大関像があるみたいなんです。次男は、昨年一年でずいぶん自信をつけました。口にはしないけれど、彼も上を目指せる立ち位置にいることを十分自覚していると思います。チャンスがあれば大関も、優勝も狙える。はつきりと口にはしないけれど、自覚しています。相撲を見ている私もチャンスだと思つています。もともと素質があつて、強くなると言われてきた力士なので。やっと少しずつ花が咲いてきたのかなと。まだ6分、7分咲きくらいですけれど伸び代をたくさん持っています。長男も白星を重ねて上を目指していくはず。応援よろしくお願いします。



ちゃんこ若葉山の店内で相撲の稽古をする政志さんと三兄弟



父・政志さんとわんぱく相撲教室に通いはじめたころの三兄弟

# 魅

# 力人

みりよくびと

春を告げる大きくて甘いイチゴは、今が旬。育てる楽しさ、食べていただく喜びを6人で分かち合いながら、イベントを企画したり、SNSで情報発信をしたりなど、型破りなスタイルで活動しているのが、いちご農家の若手生産者集団「ふくしまベリーボーイズ」です。リーダーの片平聡さんと広報担当の水野圭悟さんに、結成のきっかけや活動の内幕、新品種「ゆうやけベリー」など、6人がつく



福島県が10年かけて開発したイチゴのオリジナル新品種「ゆうやけベリー」は、甘い果汁が口いっぱいに広がる大粒種。今シーズンは、福島県内限定販売ですので福島にいらしたらぜひ！

第32回 インタビュー



Satoshi  
Katahira  
X  
Keigo  
Mizuno

ゆうやけベリーを栽培する片平さんのビニールハウス



## モットーは「楽しい農業」。 独自性を前面に打ち出し、 ふくしまの完熟イチゴに 情熱を傾ける若手生産者集団

ふくしまベリーボーイズ（リーダー）  
かた ひら さとし  
片平 聡 さん（左）

1979年、福島市生まれ。システムエンジニアとして働き続けるか農業を継ぐか、30歳になったら決めようと思っていた。2010年、妻と子ども3人で首都圏から実家に戻り就農。妻と両親と4人でイチゴ（とちおとめ・ゆうやけベリー）、リンゴ、モモ、ブドウをつくっている。祖母を含めて8人家族。



道の駅ふくしまで販売している茶箱（右）とオリジナルデザインの箱に入った「雪うさぎのもくもくいちご」（左）。

ふくしまベリーボーイズ（広報）  
みず の けい こ  
水野 圭悟 さん（右）

1982年、静岡県清水市（現・静岡市清水区）のお茶・みかん農家に生まれる。2004年から福島県を中心に活動しているお笑い集団「みちのくボンガーズ（現ふくしまボンガーズ）」の一員として活躍。2013年に引退し30歳で新規就農。トマト、イチゴ（とちおとめ・ふくあやか）をつくっている。妻と二人暮らし。

「道の駅ふくしま」が  
グループ結成のきっかけ

2022年4月、「ふくしまベリーボーイズ」（以下、ベリーボーイズ）は、「道の駅ふくしま」がオープンする少し前に産声をあげました。リーダーの片平聡さんは「春といえばイチゴ。どうしても道の駅のオープンにイチゴがほしいと頼まれ、市内でイチゴ栽培をしている若手生産者でグループを作って引き受けてはどうかということになりました。飲み会で声をかけると、みんな快諾してくれました（笑）」と、当時を振り返ります。

若手生産者の熱い思いが宿る  
オリジナルパッケージ

活動モットーは、「楽しい農業」。やるからには、独自性を前面に出していこうと決めました。その一つが、ヘタの周りまで赤くなった完熟



2023年1月15日「いちごの日」に道の駅ふくしまで開催した「いちごフェア」。オリジナルTシャツを着て奮闘しました

イチゴ（とちおとめ）を出荷すること。「朝、収穫して、その日のうちに道の駅に陳列できるので、まさに食べごろをお客さまに届けられます」。パッケージにもこだわりました。ベリーボーイズと資材会社の担当者が何度も集まって作ったのが、茶箱と早春の山肌に残る雪形「吾妻の雪うさぎ」をモチーフにした1段詰め耳付き平箱です。目を引くデザインはもちろん、機能性にもこだわっています。1つ目のこだわりは、輸送性です。「道の駅なので、手軽に持ち帰れるようにしました。茶箱もウサギ箱も、蓋があるので重ねてもOK！」。2つ目は、生産者の箱詰め作業の簡素化です。プラスチックを減らすなどSDGsを意識したそうで

す。ウサギのイラストを描いた水野さんは、「特にウサギ箱は、デビュー以来みなさんに『かわいい！』と喜んでいただいています。ウサギ箱がたくさん並ぶと売り場も明るくなります。初めてSNSにウサギ箱を投稿した時は、他県の農家さんが「1段平詰め箱、うちも採用しよう」とリツイートしてくださって。うれしかったですね」。

新品種「ゆうやけベリー」の試食や、ピンポン玉をつかんだ数だけイチゴをプレゼントする「イチゴつかみ取り」など、いずれも大盛況だったそうです。「つかみ取りは、1人5個くらいだろうと思っていたら、9個とか10個とか。すごかった。こうしたお客さまとの交流が、おいしいイチゴを作る原動力になるので、また楽しいイベントを企画したいです」と水野さん。

大盛況「イチゴつかみ取り」  
お客さまとの交流を励みに

1月15日には道の駅ふくしまで「いちごフェア」が開催され、ベリーボーイズの皆さんも店頭に立ってイチゴの魅力を伝えました。福島県の

イチゴの販売は6月中旬まで  
SNSでチェック

これからについては、うれしいニュースが。県内で14軒、福島市内では片平さんともう1軒の生産者が栽培する「ゆうやけベリー」を、今

夏からベリーボーイズ全員で取り組むことになったとのこと。「寒さや病気に強く、電照も不要なエコな品種なので、一足先に始めた僕の経験を、みんなに余すところなく伝えるつもりです」と片平さん。地下水の冷熱をイチゴ栽培に取り入れるシステムを導入するなど、すでに次のシーズンのための準備も始まっているそうです。目が離せないベリーボーイズの活動とイチゴの販売予定は、SNSでチェックできます。道の駅ふくしまでのイチゴの販売は、サクランボが登場する6月中旬までを目途にしているそうです。ベリーボーイズ自慢の完熟イチゴ、ぜひ召し上がってください。



ふくしま  
ベリーボーイズ  
Twitter



# 祝・古関裕而さんが野球殿堂入り！



福島市出身の作曲家古関裕而さんが、全国高等学校野球選手権大会の大会歌「栄冠は君に輝く」など数多くの野球関連の曲を作曲し野球界に貢献したことを評価され、令和5年1月13日、念願の野球殿堂入りを果たしました。

古関さんの80年の生涯における作品総数は約5000曲にも及びますが、野球との関わりが深い作品も多く、楽曲で野球界を盛り上げてきました。大学の応援歌やプロ野球の球団歌、野球大会の大会歌など数多くを手掛け、その楽曲は今もなお広く歌い継がれています。



▲殿堂入りお祝いセレモニー



▲野球殿堂入りの通知書

## ♪ 野球関連楽曲

- 紺碧の空（早稲田大学第一応援歌）
- 闘魂こめて（巨人軍の歌）
- ドラゴンズの歌（中日ドラゴンズ最初の球団歌）
- 我ぞ覇者（慶應義塾大学応援歌）
- 六甲おろし（阪神タイガースの歌）
- 栄冠は君に輝く（全国高等学校野球選手権大会の歌）ほか

## 古関裕而記念館

令和3年3月に大幅リニューアルを行いました。写真パネルや直筆の楽譜など、数々の貴重な資料が展示されているほか、立体音響を使った展示では古関メロディーの代表的な楽曲をシャワーを浴びるような感覚で体感できます。ぜひご来館ください！

場 所／福島市入江町1番1号  
 開館時間／午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
 入 館 料／一般300円、小中学生100円  
 TEL 024-531-3012 FAX 024-563-5578



## 元気ふくしまふるさと寄附金 (ふるさと納税)

福島市は、皆さまからいただいた貴重なご寄附を、福島市の新ステージに向けた取り組みへ活用させていただきます。皆さまからの応援をお待ちしております。

**福島市の四季折々のくだものをはじめ、多彩な返礼品をご用意しています！**

☎一般社団法人 福島市観光コンベンション協会  
 TEL 024-563-5554 FAX 024-563-5915

応援メニューなど、詳しくはQRコードから▶



ふくしまのまちづくりを応援！



## 市民フォト・ふくしま夢つうしん

2023年4月1日発行

2023年4月号 No.52



編集発行 福島市役所 広聴広報課  
 〒960-8601 福島市五老内町3-1  
 TEL 024-525-3710 FAX 024-536-9828  
 E-mail: kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

夢通信  
 バックナンバーは市ホームページ！



福島市公式SNS



## 📷 表紙紹介

福島の完熟いちご

福島市下飯坂の安兵いちご園でいちご狩り！ひとくちでは食べきれないほど大きなとちおとめ。口いっぱい春の甘さが広がります。福島市では1月上旬から5月下旬ごろまでいちご狩りが楽しめます。

※次号は2023年7月発行予定です。